５暮らしの中の日本語（池田彌三郎）

―小春・小春日・小春などという一連の語がある。やわらかな、感じのいい語だ。……

　小春という語、こはると読めば、いかにも［　Ⅰ　］だが、あるいは、ショウシュンという［　Ⅱ　］の訓読から、日本語化したのかもしれない。辞書をひくと、旧暦十月の異称とあるが、どうも、一か月に渡っての小春では、①味が違うようだ。

　冬のかかりの、今なら十一月のころ、もう、日によっては底冷えのする、寒い、冷たい日の続くある日、よく晴れて、風のない、おだやかな日、それが小春と呼ぶのにふさわしいと思う。②きびしい人付き合いの経験の中で、ふと、③温かい人の情に触れたような、ほっとするような気持ちにかようのが、小春だ。

　そして、暦は冬なのに、春のような日がある、というのも、日本の自然の移り替わりの常だ。

問１　［　］Ⅰ・Ⅱに入ることばとして、最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　外来語　　イ　漢語　　ウ　大和ことば

エ　方言　　　オ　翻訳語

Ⅰ＝（　　　）　　Ⅱ＝（　　　）

問２　―線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　感じ方が違ってくるようだ。

イ　さまざまな感じ方があるようだ。

ウ　日本人特有の感じ方があるようだ。

エ　私の感じ方とは少し違うようだ。

問３　―線部②・③はそれぞれどのような気候のたとえとして書かれたものか。文中から抜き出して答えよ。

②＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

③＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問４　「小春」を筆者はどう定義しているか。文中から一三字で抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

【解答】

問１　Ⅰ＝ウ　Ⅱ＝イ

問２　エ

問３　②底冷えのする、寒い、冷たい日

　　　③よく晴れて、風のない、おだやかな日

問４　暦は冬なのに、春のような日